

2023年4月14日

報道関係者各位

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

JIFF インクルーシブ教育プログラム 2022 年度集計 オンラインおよび対面授業の合計で 92 件実施・2,915 人が体験

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟（東京都文京区／会長：北澤豪、以下 JIFF）は、小・中学生を対象とした体験型授業「JIFF インクルーシブ教育プログラム」の 2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）集計を終え、オンライン・対面授業の合計で 92 件を実施し、2,915 人が体験したことを報告いたします。

本プログラムは、障がい者サッカー選手が登壇し小・中学校向けに行われる体験型の授業です。障がい者スポーツ・サッカーにある道具やルールの工夫、競技力向上や日常生活の中での工夫などを伝え、差別や偏見が生まれる前の小・中学生に向けて障がい理解や多様性への気づきを促していきます。2022 年度から事業化および一般公開し申し込み受付を開始しており、新型コロナウイルスの感染状況に応じてオンラインプログラム（45 分）と対面プログラム（90 分）を併用し、協賛企業等のサポートにより原則無料で実施してきました。

2023 年度は、3 月より申し込み受付を開始しています。現在はデフ（聴覚障がい）、ロービジョン（視覚障がい／弱視）、CP サッカー（脳性麻痺：対面授業のみ）、ソーシャルフットボール（精神障がい：対面授業のみ）のプログラム実施が可能で、今後他の障がい種別*のプログラムも提供できるように拡充していきます。

*日本国内には、障がい種別ごとにアンプティサッカー（切断障がい）、CP サッカー（脳性麻痺）、ソーシャルフットボール（精神障がい）、知的障がい者サッカー／フットサル（知的障がい）、電動車椅子サッカー（重度障がい）、ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル（視覚障がい）、デフサッカー／フットサル（聴覚障がい）があります。



■JIFF インクルーシブ教育プログラムについて

小・中学生を対象に、障がい者サッカー選手が登壇し行う体験型授業です。障がい者スポーツ・サッカーにある道具やルールの工夫、競技力向上や日常生活の中での工夫などを伝え、差別や偏見が生まれる前の小・中学生に向けて障がい理解や多様性への気づきを促します。障がい者への心のバリアをつくらない、あるいは取り除くことで社会にある「障害」をなくし、共生社会の実現に繋がっていきます。

<https://www.jiff.football/special/educationprogram/>

■活動実績

期間	年度	件数（授業数）	体験人数
2022年4月～2023年3月	2022年度	92	2,913

<地域別>

都道府県	件数（授業数）
北海道	1
埼玉県	3
東京都	84
岡山県	1
その他	3
合計	92

以上

[お問い合わせ先] 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟 事務局

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFA ハウス

TEL.03-3818-2030 / MAIL. jiff_info@jfa.or.jp / <https://www.jiff.football/>